

Osaka International Convention Center

Osaka

大阪国際会議場

グランキューブ便り

第22回 日本歯科医学会総会 お口の健康 全身元気—各世代の最新歯科医療—

大阪歯科大学理事長・学長 川添 基彬さん

広報誌

2013
冬号/VOL.4



第22回 日本歯科医学会総会が 大阪国際会議場とインテックス大阪を会場に 開催されました。

4年に一度開催される第22回日本歯科医学会総会が、「お口の健康全身元気—各世代の最新歯科医療—」をテーマに、2012年11月9日から3日間、大阪国際会議場とインテックス大阪の両会場で、内外から約43,000人の方々が集い盛大に開催されました。

大阪国際会議場では、数多くの講演やシンポジウム、国際セッションシンポジウム、視聴覚プログラム、一般の方々を対象にした公開フォーラム・検診事業などのイベントが行われました。またインテックス大阪では、参加された関係学会による分科会やテーブルクリニック、ポスターセッションが行われました。

大阪国際会議場とインテックス大阪間には、総会の開催期間中、主催者様によるシャトルバスが運行され、参加者の利便が図られました。

本誌では、今総会の会頭を務められました大阪歯科大学理事長・学長の川添堯彬先生へのインタビューをご紹介します。

第22回 日本歯科医学会総会
お口の健康 全身元気—各世代の最新歯科医療—
A healthy mouth, a healthy body
—The latest dental care for all generations—を終えて

第22回 日本歯科医学会総会 会頭
大阪歯科大学理事長・学長

川添 堯彬



21年ぶりに大阪で開催

日本歯科医学会総会は、日本の歯科界最大の学術集会です。超高齢化に伴う疾病構造の変化に合わせ、歯科だけではなく、口腔や内科、耳鼻科などに関連した組織にも範囲を広げ、臨床研究者、歯科衛生士、看護師、技工士などの関係者に呼びかけて、4年に1度開催しています。歯と口腔、その周囲組織に関する学術研究の4年間の集大成を発表し、その成果に基づいて未来を予測することを趣旨としています。

近年、口と身体の各部位のつながりについて学術的根拠が発見されており、全身の健康と歯と口腔の健康には深い関わりがあることを訴えるのが目的の1つでした。22回目となる今回、21年ぶりに大阪で開催することとなり、大阪から元気を発信したいという思いもありました。そして、日本歯科工商協会の協力を得て、最新の歯科治療の機材や設備、薬品などの消耗材料を展示する「デンタルショー2012」も併催することになりました。

歯科に関する学会は40ほどありますが、今回初めて、各学会の最新の情報と知見を発表してもらうための分科会を

行いました。また、乳幼児から小児、学童、壮年、高齢者に至るあらゆる年代に応じた学会、障害者に関する学会もありますので、各ライフステージにおける歯科関連の疾病的最新情報も盛り込み、百科事典のような構成にしました。

歯科治療の将来を担う再生医療

開会講演は、京都大学の山中伸弥教授にお願いすることになりました。これまでの総会は関東の学者ばかりで行われていたので、今回はぜひ、関西の学者をお招きしようと思っていたのです。

ES細胞、幹細胞、iPS細胞などの発生学、再生医療は、歯科口腔治療に欠かせません。口の粘膜は再生能力が高く、2~3mmの歯茎の断片から皮膚、角膜、歯などいろんな組織ができます。その証拠に、口の中の粘膜はすぐに傷つきますが、すぐに治ります。特に乳幼児や子どもの口の粘膜は、非常に大きな再生力があります。大人でも、親知らず(第3大臼歯)が生えたら、その周囲の組織は子どもと同じで、非常に再生しやすいのです。

抜いた親知らずを他の歯の抜けたところに差し込むと、高い確率で定着します。すぐに必要なければ、-30℃で凍結保存しておいて、十数年先に使うこともできます。ただ、再植は同一個体のものでなければ、拒否反応が起こります。こういった問題は、iPS細胞が実用化されれば解決します。iPS細胞による再生医療が進めば、現在行われているインプラント(人工歯根)にも、完全に取って代わるでしょう。

高齢になって歯周病などで歯が抜けてしまっても、またつくり出せるようになれば、世界中の人が幸せになります。つまり、歯科の将来は、再生医療にかかっています。山中先生には、そういった明るい未来を語っていただきたいと思っていました。

裏話になりますが、山中先生は昨年ノーベル賞を受賞されると予想していました。しかし受賞を逃されたので、今年受賞ということになれば、我々の総会には出られなくなるかも知れませんでした。やはり今回授賞式の前にヨーロッパ各国を公務で回らなければならなくなり、総会にはビデオメッセージでのご出演となりました。先生は、落ち着いたら次の機会には是非出演下さると申されています。



22nd JADS
OSAKA 2012



若い研究者のやる気を醸成

口と全身との関係で一番脚光を浴びているのは、糖尿病と歯周病の関係です。総会の最終日、日本糖尿病協会の方々と一緒に、府県民公開講座と討論会をしたところ、メイン大ホールが一杯になりました。糖尿病の予防は歯周病の予防にもなり、歯周病の予防は糖尿病の予防にもなるという、切っても切れない関係があります。

歯とほかの内臓器官の関係は、最近よくNHKの「ためしてガッテン!」などの番組でも取り上げられています。歯が上下そろっている人が食べ物をしっかり噛むと、大脳皮質に信号が伝わり、認知症や寝たきりの予防、記憶力の回復、うつ病などの予防にも効果があると言われています。総会では、口と全身との関係に加え、子どもから高齢者までの各世代における歯科医療なども、広く網羅しています。

ポスターセッションでは、各大学や歯科医師会の協力を得て、歯科学生たちの発表と表彰を行いました。最近は女性が積極的で、立派な研究がたくさんありました。日本の受賞者2名を、フロリダの大会に派遣することになっています。将来の明るい夢を示して若い人たちの心に火をつけ、ノーベル賞をもらえるような優秀な研究者を育てることが、日本の国力を高めることになると思います。中山先生もよくおっしゃっているように、iPS細胞は、創薬や難治性の病気の治療にも大きな可能性があります。日本でそういった薬ができれば、世界中の多くの難病患者を助けられるでしょう。

私は常常、若い人たちには高い志を持ってほしいと思っています。単に、開業医や研究者になりたいという望みでは、学生時代から元気が出ません。私どもの大学は世界の14大学と姉妹校提携していますが、外国の学生たちはみんな世界に目を向け、自分がどういう人生を歩み、どのように社会に貢献できるかを常に考えています。しかし今回、中山研究室の若い高橋和利先生の講演では、日頃は教室で騒いだり居眠りをしているような学生たちも、熱心に聞き入ってメモをとっていました。それを見て、日本も捨てたものではないと

思いました。良いテーマを提供すれば、志の高い学生は必死になって勉強すると思います。

大阪の活性化の一翼を担いたい

私は大阪国際会議場を、こけら落しのときから、学会やいろいろな会合でずっと利用しており、お陰さまで毎回、大成功を収めています。この9月の日本口腔インプラント学会も4,400人あまりが出席し、一昨年の東京国際フォーラムの最高記録を抜きました。もちろん今回の総会も大成功でした。大阪で開催してもそれほど人は集まらないと予想していた関東の人たちは非常に驚いたようで、私としても誇らしい思いです。

この会議場はとても使い勝手がいい。全館を借りることも、一部を借りることもでき、足りないときは隣のリーガロイヤルホテルも利用できるので、部屋を無駄にすることなく、大小さまざまな集まりに使えます。

別の部屋や別の階への移動には、エレベーターとエスカレーターが効率よく使えます。3階のイベントホールは広くて天井が高いので、ポスターを掲示する衝立をたくさん立てても、ゆったりと使えます。5階のカフェテリアも、安くて大勢収容できます。国内のどの施設も、この会議場の便利さにはかないません。

大阪は古くから大陸との流通拠点であり、素晴らしい歴史と伝統のあるまちです。今回の印刷物や記念品等に統一して使っている文楽人形のシンボルマークにも、そういった思い入れがあります。先般、文楽協会への補助金問題が新聞紙上を賑わしましたが、このデザインはそれ以前から考えていました。口が目立つデザインなので、一度見たら忘れませんし、大阪の歴史と文化も表現できます。色づかいは世界のこの秋の流行色を取り入れています。これまでの総会で、人間の顔をモチーフにしたマークは初めてだそうです。

私は大阪の活性化のためにも、今回も当会議場に大いにご協力いただいて、明るい未来が展望できる話題を、国内はもちろん世界にも発信するお手伝いをしていければと思っています。(談)

歴史に学び 国際化を急ぐ必要あり

サンディップ K. タゴール

私と日本の縁

先日、クウェート駐在のジャーナリストの友人から興味深いEメールが届いた。「国際会議のため日本の航空会社の飛行機で東京へ行く途中、コックピットの窓にひびが入り、インドで緊急着陸することになった。すると乗務員全員が整列し、乗客1人1人に深々と頭を下してくれた。時間待ちのために案内されたホテルでは、航空会社の現地マネジャーがまた丁寧にお詫びを述べ、翌朝も挨拶に来てくれた。さらに、成田空港に着くと、早朝にもかかわらず、会議の主催者の女性が出迎えに来てくれていた」という内容だった。

彼女は日本人の礼儀正しさに圧倒され、申し訳ない気持ちになったそうだ。日本人にとっては当たり前の気遣いに、インド人もびっくり、世界の人々もびっくりしたのである。

私と日本との出会いは、約80年前に遡る。大祖父で、東洋で初めてノーベル賞(文学賞)を受賞した詩人のビンドラナート・タゴール(1861~1941)は5回来日し、岡倉天心や横山大観らとも親交があった。私の実家は英領時代の1761年に建てられた屋敷で、敷地内には大学もある。私は3歳の時、屋敷の図書館に、自分の体よりも大きな本が10数冊並んでいるのを見つけ、その1冊を開いて思わず息を飲んだ。それは、美しい着物姿の女性を描いた日本画だった。私は「こんな国へ行きたい」と憧れを抱くようになった。

大学卒業後、ポーランドで開催された第1回国際ユースフェスティバルに、インド代表として参加した。たまたまホテルで同室になった日本人に、私は靴下を脱いでほしいと頼んだ。だが、彼の素足は私と同じだった。実はそれまで、日本画で見た女性が足袋を履いていることを知らず、日本人の足には指がないと思い込んでいたのだ。

1957年、私は政府の奨学生として日本に留学することになった。東京で勉強するよう勧められたが、それを辞退し、

以前から予定していた京都で暮らすこととした。知恩院の宿坊に下宿させてもらい、日本人と同じ暮らしを始めた。1962年から4年間は倉敷レーヨン(大阪)に勤務し、森英恵さんなど有名なデザイナーから教えを受けた。

インドと大阪・関西

インドと関西の共通点は多い。大阪の人は日本で最も気さくで温かだ。インド人も温かい人間性が特徴だ。堺に大陸から入って来た茶を用い、千利休が茶道を確立したように、外国から渡來したものを、独自の文化として発展させている点もインドとよく似ている。

建築家の安藤忠雄さんは、新入社員を最初にインドへ勉強に行かせるそうだ。長い歴史の間に、外国からいろんな文化が入ってきたインドには、多種多様な建築技術の集積があるからだ。モヘンジョダロとハラッパは、6~7000年前のインド人が造ったものだ。そして、ムガル帝国、英領インド、それぞれの時代の建築物が今も随所に残されている。

インドの人口は世界2位で、25歳以下の人口は世界1位である。面積はパキスタンとバングラデシュが独立してからも、ヨーロッパより広い。言語によって28の州に分かれ、公用語として英語とヒンディー語を使っている。1つの家系でもいろいろな民族が交じり合っているので、きょうだいで肌や眼の色が全く違うことも珍しくない。このような「ごちゃ混ぜ」の広大な国をまとめているのは、「Everybody is Indian」という共通認識とヒンズー教である。言語はいろいろあっても、アイデンティティは1つであることを意識しているから、みんなが平和的に暮らしていくのだと思う。

今のインドは元気だ。私は、朗らかさは人類全てに共通の性質だと思う。それが發揮されるかどうかは、豊かさとコミュニケーション次第だ。人は苦しい生活から少し裕福に

なれば、その状況を守りたいという意欲が芽生え、さらに上を目指して努力するようになる。だが、インドは今でも、日本の発展をお手本にしている。中国はインドより急速に発展しているが、作法を日本に習っていないところが問題だと感じている。

私が日本に来た頃は血気盛んな学生が多かった。しかし今は無気力な若者が増えているようだ。外国へ行きたくない。かといって日本で勉強する気もない。日本の社会福祉に甘え、向上心をなくしているように見える。人に元気がなければ、世の中は真っ暗になる。一方で、お金ばかり中心に考えると、文化が倒れてしまうのも事実だ。

大阪を元氣にするための提案

大阪を元氣にする特効薬はないが、いま大切なのは歴史に学ぶことだと思う。過去の素晴らしい財産を掘り起こし、それを土台にして発展していくことが、大阪が活力を取り戻すための一一番の近道だろう。日本経済は、人工的につくり出されたブームの繰り返しの中で発展してきた。私が最初に日本へ来たとき「ダッコちゃん」が大流行していた。私はデザイナーの森英恵さんとも親交があるが、ファッションも流行りすたりを繰り返して、洗練されたものが出来上がってきた。しかし、今芸能界を席巻しているAKB48のような流行は、人々を扇動しているだけで、根本的には日本のイメージを落とすものではないかと思う。その意味でも大阪は、本当に価値のある歴史と文化を見きわめ、磨いていくことが重要だ。

私は日本で55年暮らし、半分は日本人になっている。だが残念ながら、私より日本に関する知識や関心がない日本人が多い。子どもたちはテレビやマンガの影響で、日本人的な思考ができなくなり、若い世代の親たちも、日本人としてのアイデンティティをなくしている。インテリゲンチャが国歌と国旗を軽んじるという、おかしな風潮もある。

一方で、日本には私のような外国人もたくさん住んでいる。私は高槻市政50周年(1993年)記念で当時の江村市長と対談し、長く関わってきたロータリークラブの活動の一環



として、いろんな大学、いろんな国の人たちを集め、市長を囲んで意見交換会を行うことを提案した。お陰さまで大成功だったが、その後市長が交代し、続けられなくなったのは残念だ。

そこで、大阪国際会議場に1つ提案がある。こんなに立派な施設があり、ノウハウや人材も揃っている都市は、世界にそう多くない。そして、関西・大阪には多くのインテリゲンチャが住んでいる。東京にも知識人は多いが、どの国でも首都は官僚的でつまらないものだ。だから、日本人と、関西・大阪に住んでいる外国人も含め、本当に知識・教養の高い人を一堂に集めて、年に1~2回、国際的なシンクタンクとしての会議を開催していただきたい。いや、絶対開催しなければいけないと思う。

大阪の人だけで考えていても、新しいアイデアは出てこない。たこ焼きだけを食べて満足していてはいけない。表面的な愛国心(patriotism)は、島国根性の塊のような考え方だ。大阪には落語など質の高いお笑いや、伝統文化が数多くある。それらを発展させていくには、まず国際化を急ぐ必要がある。国やまちを滅ぼすのは、経済ではなく、人の心だと思う。

サンディップ K. タゴール●PROFILE

- 1931年 インド・カルカッタ生まれ。
追手門学院 文学部名誉教授。
- 1954年 Visva Bharati /Tagore International University,
Santiniketan, WB, India.
- 1957年 文部省の留学生として来日し、京都工芸繊維大学で学ぶ。
- 1958年 関西インド文化協会(京都・神戸)を共同設立。
- 1966-97年 日本英語検定協会審査員。
- 1970年 追手門学院とインドジャラート大学の共同で
「日本インド学生交流プログラム」設立。
- 1981-99年 大阪音楽大学インド音楽講師。
- 1987-97年 大阪外国语大学ベンガル語講師。
- 1987年 JAFSと共同でアジア文化センター大阪設立、
99年まで専務理事。
インド文化センター・アジア協会・アジア友の会名誉会長。
- 1993年 神戸三田セミナーハウス・道場の壁画(油絵)制作。
- 1996年 大阪府文化賞受章。
- 2002年 アジア図書館長。
- 〔翻訳〕 『雪国』『千羽鶴』(ベンガル語)、
川端康成、万葉集、芥川龍之介ほか(ベンガル語・英語)
- 〔趣味〕 絵画、音楽、旅行、料理、ライフスタイルなど。

国際会議の開催統計から

日本で開催される国際会議の統計資料が、毎年、日本政府観光局(JNTO)により「コンベンション統計」として発行されています。またこの統計では、国際団体連合が発行している国際会議統計(UIA国際会議統計)による世界における国際会議の開催状況についても掲載されております。

UIA国際会議統計によりますと、2011年に全世界で開催された国際会議は10,258件で、国別に見ますと、シンガポールが919件、アメリカが744件、日本が598件、フランスが557件、ベルギーが533件となっています。

(JNTOの統計では、日本で開催された国際会議は1,892件、参加者総数1,069,506人、外国人参加者数91,793人となっています。)

JNTOの統計による全国の主な会議場(概ね1件当たり1,000人以上の大規模な会議を開催)における国際会議の過去3年間の開催状況は以下のとおりです。(JNTOの統計データをもとに本誌で作成)

過去3年間に大阪国際会議場で開催された国際会議の参加者総数は、平均で1件当たり1,805人で、このうち外国人参加者数は122人となっています。本誌では、大阪国際会議場で開催された主な国際会議を次頁以下に掲載しております。

※JNTO国際会議基準とUIA国際会議の基準について

参加者総数や参加国数、主催者の定義などで、統計の取り方が異なっています。詳しくはJNTOのコンベンション統計をご覧ください。

国際会議の開催状況(JNTO基準)

※JNTOの「コンベンション統計」は日本政府観光局のホームページでご覧になれます。(http://mice.jnto.go.jp/)

2009年		2010年		2011年	
会場名	件数	会場名	件数	会場名	件数
大阪国際会議場	37	大阪国際会議場	23	大阪国際会議場	26
パシフィコ横浜	91	パシフィコ横浜	73	パシフィコ横浜	70
つくば国際会議場	47	国立京都国際会館	49	国立京都国際会館	40
国立京都国際会館	44	つくば国際会議場	42	つくば国際会議場	32
名古屋国際会議場	29	神戸国際会議場	31	神戸国際会議場	26
福岡国際会議場	28	幕張メッセ	27	名古屋国際会議場	24
アクロス福岡	28	淡路夢舞台国際会議場	26	福岡国際会議場	21
淡路夢舞台国際会議場	25	福岡国際会議場	25	東京ビッグサイト	20
幕張メッセ	24	東京ビッグサイト	21	淡路夢舞台国際会議場	19
北九州国際会議場	21	仙台国際センター	21	アクロス福岡	17

2009年		2010年		2011年	
会場名	人数	会場名	人数	会場名	人数
大阪国際会議場	3,845	大阪国際会議場	4,860	大阪国際会議場	1,827
国立京都国際会館	7,211	パシフィコ横浜	15,450	国立京都国際会館	11,180
パシフィコ横浜	6,839	国立京都国際会館	10,727	パシフィコ横浜	6,571
神戸国際会議場	3,559	名古屋国際会議場	8,459	東京国際フォーラム	3,231
つくば国際会議場	3,375	神戸国際会議場	4,533	東京ビッグサイト	2,350
名古屋国際会議場	2,220	札幌コンベンションセンター	3,800	名古屋国際会議場	1,870
北九州国際会議場	2,056	北九州国際会議場	3,743	神戸国際会議場	1,792
東京ビッグサイト	1,728	東京ビッグサイト	3,261	北九州国際会議場	1,732
札幌コンベンションセンター	959	福岡国際会議場	2,768	札幌コンベンションセンター	1,709
東京国際フォーラム	903	幕張メッセ	2,559	幕張メッセ	1,587

2009年		2010年		2011年	
会場名	人数	会場名	人数	会場名	人数
大阪国際会議場	65,163	大阪国際会議場	50,016	大阪国際会議場	40,011
パシフィコ横浜	315,146	パシフィコ横浜	138,035	パシフィコ横浜	143,705
国立京都国際会館	80,161	国立京都国際会館	88,263	名古屋国際会議場	88,284
福岡国際会議場	61,754	東京ビッグサイト	61,716	国立京都国際会館	62,369
名古屋国際会議場	35,627	神戸国際会議場	56,467	福岡国際会議場	52,857
神戸国際会議場	30,391	名古屋国際会議場	39,946	東京ビッグサイト	46,449
東京ビッグサイト	23,532	福岡国際会議場	25,790	幕張メッセ	24,989
北九州国際会議場	22,571	幕張メッセ	24,699	神戸国際会議場	22,499
幕張メッセ	18,714	仙台国際センター	22,862	東京国際フォーラム	21,328
東京国際フォーラム	15,430	つくば国際会議場	15,753	札幌コンベンションセンター	17,266

開催件数

外国人参加者数

参加者総数

大阪国際会議場で開催された主な国際会議

2009年					
期間	会議名	参加国数	参加外客数	国内参加者	参加者総数
1/8~1/9	第47回 セラミックス基礎科学討論会	5	50	450	500
1/14	第2回 京都・大阪大学・神戸大学連携シンポジウム 都市と地域の防災～自助・共助・公助そして企業の「産助」～	3	2	388	390
2/26~2/28	第36回 日本集中治療医学会学術集会	7	20	2,980	3,000
3/16~3/18	国際蘇生連絡協議会学術集会(ILCOR会議)	12	120	20	140
3/20~3/22	第73回 日本循環器学術総会・学術集会	21	265	13,308	13,573
4/5~4/9	第7回 国際関節鏡・膝、スポーツ整形外科学会(7th Biennial is AKOS)	54	1,400	800	2,200
5/15~5/17	第29回 日本脳神経外科コングレス総会	5	20	3,180	3,200
5/21~5/24	第52回 日本糖尿病学会年次学術集会	21	100	6,129	6,229
5/25~5/27	第1回 岸本基金国際免疫シンポジウム	20	130	370	500
6/1~6/3	第46回 日本小児外科学術集会	3	20	480	500
6/19~6/20	第14回 日本緩和医療学会学術大会	5	4	5,529	5,533
7/16~7/18	第64回 日本消化器外科学会総会	5	50	2,950	3,000
8/29~8/30	第1回 造血器腫瘍免疫療法研究会学術集会	3	2	114	116
9/4~9/5	第11回 日本褥瘡学術集会	3	4	5,796	5,800
9/11	「観光庁MICE推進アクションプラン」説明会及び国際会議場(ICCA) Martin Sirk会長講演会	3	2	60	62
9/11	国際観光活性化シンポジウム	3	10	210	220
10/5~10/10	第45回 ISO / TC106(歯科)年次会議(大阪)	19	204	205	409
10/13~10/14	道路分野でのPPPに関する国際ワークショップ	25	100	150	250
10/17~10/18	第9回 日本Men's Health医学会	8	30	20	50
10/24~10/27	第6回 アジア睡眠学会・日本睡眠学会第34回定期学術集会・ 第16回 日本時間生物学学会学術大会合同学会	5	200	1,800	2,000
11/13	第50回 スガウェザリング学術講演会	3	3	297	300
11/20~11/22	第30回 動物臨床医学会記念年次大会	8	20	2,180	2,200
11/27~11/28	The 3th International Symposiumu on Clinical Trial	7	30	220	250
12/7~12/9	第35回 個体イオニクス討論会	5	20	280	300
12/18~12/19	第23回 日本冠疾患学会学術集会	6	10	790	800

2010年					
期間	会議名	参加国数	参加外客数	国内参加者	参加者総数
3/12	日米環境ビジネスフォーラム「日米グリーン・イノベーションを語る」	4	5	115	120
3/16～3/18	第83回 日本薬理学会	5	10	3,000	3,010
3/29	上海万博 大阪フォーラム	4	10	290	300
4/16～4/18	第109回 日本皮膚科学会総会(109th JDA)	5	10	5,000	5,010
4/19～4/23	第12回 IEEE/IFIP Network Operations and Management Symposium(NOMS2010)	30	245	115	360
4/22～4/23	IUWG 2010 Executive Forum / Technical Forum	4	40	60	100
5/19～5/21	第62回 日本細胞生物学会大会	6	15	874	889
6/25～6/27	第49回 日本白内障学会総会、第25回 日本眼内レンズ屈折手術学会総会	6	60	5,940	6,000
9/22～9/24	第69回 日本癌学会学術集会	20	200	5,800	6,000
9/27～10/5	IEC/SC23HPT62196 他 国際会議	11	42	22	64
10/21～10/23	第52回 日本先天代謝異常学会総会 / 第9回 アジア先天代謝異常症シンポジウム	10	20	380	400
10/24～10/27	第63回 日本胸部外科学会定期学術集会	15	100	4,900	5,000
10/31～11/7	2010年 国際青年会議所(JCI)世界会議大阪大会	128	3,000	7,000	10,000
11/14～11/18	第3回 国際セラミックス会議	56	1,000	1,200	2,200
11/19～11/21	第31回 動物臨床医学会年次大会	5	20	2,180	2,200
11/23	大阪歯科大学創立100周年記念事業「日中韓学術大会」	3	20	123	143
11/26～11/28	網膜2010(第16回 日本糖尿眼病学会総会・日本網膜硝子体学会 第49回 総会)	3	3	1,676	1,679
12/17～12/19	第52回 日本小児血液学会総会、第26回 日本小児癌学会学術集会、第8回 日本小児癌看護学会、第15回 財団法人がんの子供を守る会公開シンポジウム	3	10	2,000	2,010

2011年					
期間	会議名	参加国数	参加外客数	国内参加者	参加者総数
1/18	関西・大阪文化力会議 2011	3	4	1,196	1,200
2/22～2/25	第11回 国際GBASワーキンググループ会合(IGWG)	19	52	46	98
3/13	第76回 大阪透析研究会	6	10	1,719	1,729
4/1～4/4	世界舌側歯科矯正会議	15	51	736	787
5/2	大阪大学創立80周年記念事業国際シンポジウム「コトバと国家の1世紀」	6	7	64	71
5/25～5/27	第60回 高分子学会年次大会	10	30	3,900	3,930
7/12～7/14	コンクリート工学年次大会 2011(大阪)	4	17	4,599	4,616
7/16～7/17	第17回 日本心臓リハビリテーション学会	4	4	1,040	1,044
7/21～7/24	第20回「日本心血管インターベンション治療学会学術集会	10	200	5,000	5,200
7/28～7/30	第29回 日本骨代謝学会学術集会	6	20	1,084	1,104
8/29～8/31	第63回 日本産婦人科学会学術講演会	11	102	4,791	4,893
9/4～9/7	第40回 国際騒音制御工学会議	40	506	447	953
9/9～9/10	第26回 日本乾癥学会	4	10	600	610
9/21～9/23	第8回 国際微量癌シンポジウム	7	51	106	157
9/30～10/1	第11回 日本認知療法学会	3	10	890	900
10/11～10/14	第3回 レーザーピーニング国際会議	10	50	30	80
10/21～10/23	第56回 (社)日本口腔外科学会総会・学術大会	7	100	2,400	2,500
11/3～11/4	第52回 日本肺癌学会総会	4	10	3,000	3,010
11/7～11/11	第18回 ISO / TC94 / SC13 総会およびWG会議	9	18	36	54
11/18～11/20	第32回 動物臨床医学会年次大会	11	50	1,950	2,000
12/7～12/9	第24回 日本内視鏡学会総会	15	50	3,000	3,050

大阪国際会議場のバリアフリーについて

Barrier Free

ハートビル法の正式名称『高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律』は、1994年に制定されました。この法律は、高齢者や身体障がい者などの方が安心して利用できるビルの建築を促進することにより、誰もが快適に暮らせるような生活環境づくりを目的としています。当会議場もハートビル法の制定後の1999年に建てられました。



Slide

例えば、当会議場では正面の歩道から入館する際、階段横に幅135cmのスロープを設け、両側に手摺を設置致しました。
また、勾配を1/12にしているのもこの法律に準拠したものになっています。
(1/12勾配とは、高さ1mを12mかけて上り下りするスロープのことです。)

Sanitary Room

トイレも各主要階に車いす使用者用のものを設置し、その内の6階と11階にはオストメイト対応式も設置致しました。

当館では、設備面に留まらず、非常時の避難誘導や日常の案内等の人的な対応と連携し、これらの設備を利用しやすいものにするため、総合的なバリアフリーを推進しております。



多彩な催しが開催されました。

地震予知研究国際フォーラム

2012年9月28日(金)・29日(土)/5F 小ホールほか

阪神淡路、東日本と甚大な被害をもたらした巨大地震に続き、東海・東南海・南海の大地震の発生が心配されているなか、市民を対象にギリシャ、米国、ロシア、日本の地震予知の専門家による、世界の地震予知最新研究トレンドを紹介した国際フォーラムが開催されました。「VAN地震予知法とナチュラル・タイム解析」「衛星からの多センサ観測による学際的な地震早期警戒網の構築」など、地震予知の状況、研究の最前線の講演に参加した方々は熱心に聴き入りました。

(主催:関西サイエンス・フォーラム、関西科学技術セミナー会議、大阪国際フォーラム)



中之島国際音楽祭2012

2012年10月6日(土)・7日(日)/特別会議場&ホワイエ

大阪から世界へ、世界から大阪へつなぐクラシックの音楽祭である中之島国際音楽祭が、中国、ロシアからのピアニストを迎えて、今年も秋の2日間大阪国際会議場で開催されました。「大阪4大オケのコントラバス奏者夢の競演」「上海音楽学院付属学校の神童たち」「エンキ 中国琵琶」「米澤 優テノールリサイタル」「佐藤康子・小濱妙美ソプラノリサイタル」「林 佳勲ピアノリサイタル」「ミハイル・コロンタイピアノリサイタル」と多彩なプログラムに、1200名が聴き入り、秋の一日を楽しんでいただきました。(主催:(株)大阪国際会議場)



LIVING & DESIGN 2012 住まいと暮らしのリノベーション TOTAL INTERIOR

2012年10月24日(水)～26日(金)/イベントホールほか

これからのお住空間を提案する第4回国際見本市「LIVING&DESIGN 2012」がはじめて大阪国際会議場で開催され、100を超える企業、団体、大学から住宅をはじめ、建材、家具などのインテリア製品やそれらのデザインまで幅広く出展がありました。期間中は約7,300人の来場者で賑わい、ビジネスに繋がるネットワークが築かれました。また、特別講演会「都市活性化の成功事例をつくったミラノ・フォーリサローネ」、スペシャル対談「生活が変われば、日本が変わる」やシンポジウムが開催されました。(主催:LIVING&DESIGN 2012実行委員会)



第13回滅菌供給業務世界会議(WFHSS2012)

2012年11月21日(水)～24日(土)/10F 会議室1001～1003ほか

WFHSS(World Forum for Hospital Sterile Supply)は、世界各国の病院滅菌供給業務関係団体が参加登録した国際組織で、各国の持ち回りで年次会議を開催しております。初のアジア開催として2012年度の会議を大阪で開催し、日本、ならびにアジア諸国を中心に、ヨーロッパ、アメリカなど世界の41ヵ国から約1,100名の参加者のものと滅菌供給業務における世界的な問題について活発な議論が行われました。

(主催:一般社団法人日本医療機器学会、World Forum for Hospital Sterile Supply)



| Event Calendar |

	会期	催事名
1月	5(土)	青木隆治 CONCERT TOUR 2012－2013
	10(木)	沢田研二 2013正月LIVE 燐えろ阪神タイガース
	13(日)	第60回 大阪市保育研究発表会
	14(月・祝)	第13回 天空囲碁大会in水都・中之島
	25(金)・26(土)	第31回 周産期学シンポジウム
	26(土)	第130回 上田学園コレクション
	26(土)・27(日)	日本心エコー図学会 第17回 冬期講習会
	27(日)	西野カナ Kanayan Tour 2013 ~Spring~
	3(日)	関西バレエカンパニー公演 第40回 バレエ芸術劇場「ドン・キホーテ」全幕
	5(火)・6(水)	ゴールドワイン アウトドア F/W展示会
	8(金)	HAN-KUNコンサート
	9(土)・10(日)	第35回 青潮書道会全国展
	11(月・祝)	大阪民医連 学術運動交流集会
	13(水)・14(木)	大塚商会実践ソリューションフェア 2013
2月	15(金)～17(日)	Japan Endovascular Treatment Conference 2013
	16(土)	第33回 近畿消化器内視鏡機器取扱講習会 第60回 近畿消化器内視鏡技師学会
	16(土)・17(日)	OSAKA Prix 第14回 クラシックバレエ・コンクール
	20(水)	スガシカオコンサート
	20(水)・21(木)	WHO'S FOODS 2013 UCCグループ展示商談会
	23(土)・24(日)	甲斐バンド
	2/27(水)～3/1(金)	第85回 日本胃癌学会総会
	2(土)・3(日)	Every Little Thing Concert Tour 2013
	8(金)	学校法人コミュニケーションアート GRADUATION CEREMONY 2012
	10(日)	日本褥瘡学会近畿地方会 第10回 記念学術集会
	10(日)	(財)日本ボールルーム連盟西部総局プロ選手会親睦ディナーパーティ
	9(土)・10(日)	ゴスペラーズコンサート
	12(火)	ジャーニー
3月	13(水)	2013 トーホーフードサービス総合展示商談会
	16(土)・17(日)	OSAKA Prix 第14回 クラシックバレエ・コンクール
	22(金)	国立大学法人大阪教育大学 平成24年度 学位記・終了証書 授与式
	24(日)	第26回 近畿小児科学会学術集会
	25(月)	追手門学院大学 2012年度学部学位授与式並びに大学院学位授与式
	26(火)	帝塚山大学卒業式・大学院修了式
	29(金)	安藤忠雄講演会

